

創薬システム研究で、日本の創薬力を高める。

世界視野で創薬プロセスや戦略、エコシステムを研究し、その成果で、創薬研究を支援し、政策立案へ貢献する。

日本の創薬の国際競争力は脆弱です。その原因の一つは、創業スタートアップが育っていないことです。世界では、創業を目指す大学研究者やスタートアップを支えるエコシステムを確立させ、プロフェッショナルが支援を行うことで、次々と新薬を生み出しています。本研究では、世界の創業マネジメントや創業エコシステムを調査・分析し、日本の創薬力の向上に役立てようとしています。

研究代表者

奥山 亮

OKUYAMA Ryo

立命館アジア太平洋大学
国際経営学部 教授

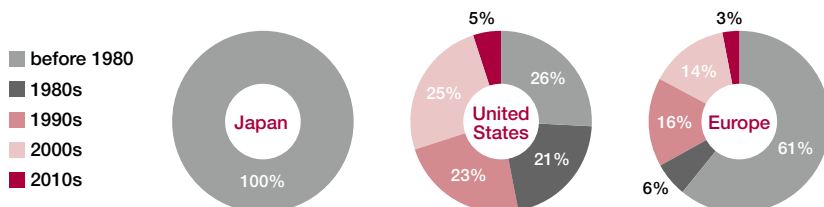
「日本の創薬力を高めたい」という思いで、独自の学術研究と、創業研究の支援を続けています」

新規性・独自性 | 創薬プロセスやそのマネジメントに精通した、日本では希有なプロフェッショナルとして。

創業マネジメント研究やエコシステム研究には薬学と経営学が必要ですが、両方に精通する研究者は希少で、先行研究も多くありません。そのことは、日本の創薬力強化への抜本的対策が講じられない原因の一つとなっています。

本研究の代表者は、薬学と技術経営の両分野で博士号を有し、大手製

薬企業でのグローバル研究ヘッドなどの創業研究マネジメントと、アカデミアでの創業イノベーション・エコシステムの学術研究の両方を経験。そうした研究成果や、長年の経験・ノウハウを注ぎ込むことで、スタートアップや創業研究者に対して、また専門機関や企業に対して、独自性の高い活動を続けています。



世界の創業におけるスタートアップの台頭と、日本の創業スタートアップの出遅れ

2017~21年のアメリカ食品医薬品局（FDA）承認新薬を創製した企業の設立年を、日米欧で比較。米国では新薬の74%を1980年以降設立のスタートアップ・新興企業が創製。一方、日本では100%すべてを1980年以前設立の“老舗”企業が創製。

社会連携に向けて | 創薬研究を支援し、「日本版創業イノベーションシステム」の提案を目指す。

日本の創薬力の強化のために、研究成果を以下の2方向へ展開していきます。

①高度な知識やノウハウ・戦略が求められる創業研究において、創業プロセスやそのマネジメントに精通したプロフェッショナルとして、中立的な立場からスタートアップや創業研究者に実践的な助言を行い、伴走して支援します。

②世界の創業イノベーション・エコシステムを分析研究した上で、政策担当者や専門機関・団体、企業などへの助言、提案を行い、「日本版創業イノベーションシステム」の提案を目指します。

創業のプロセスと、それに挑むアカデミア研究者やスタートアップが必要とする創業マネジメント

